

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十一年九月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲學研究

第十二卷 第十册

第二十四七號

昭和十一年十月一日發行



論理の社會存在論的構造……………文學博士 田邊元

歴史に於ける辨證的と產出的(承前)……………

……………文學士 山良哲次

ジャン・ルカジェウイツ『多價命題計算學に就て』……………

……………文學士 近藤洋逸譯

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會

京都哲學會公開講演會

來る十一月二十一日(土曜日)午後一時半より京都帝國大學法學部第四教室に於て左記の如く公開講演會を開催致します

宗教とその歴史性

京都帝國大學助教授文學士 西谷啓治君

感情に就て

京都帝國大學講師文學士 島芳夫君

京都帝國大學文學部内

京都哲學會

前 號 目 次

知 覺 論 第一部 ゲシタルト心理學……………文學士 土井虎賀壽

アウグステイヌス『神の國』の歴史觀……………文學士 松村克己

歴史に於ける辨證的と産出的……………文學士 由良哲次

會 告

- 一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

- ◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
- ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替大阪三九三一番東京三九三一番)内外出版印刷株式會社宛に願上候
- ◆ 前金切れの場合に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券差額御送付下され度候

定 價

冊	冊	冊	冊	冊
一	六	十二	冊	冊
冊	冊	冊	冊	冊
金	金	金	金	金
四	四	四	四	四
拾	拾	拾	拾	拾
錢	錢	錢	錢	錢
壹	壹	壹	壹	壹
中	中	中	中	中
受	受	受	受	受

廣 告 料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十一年九月廿五日印刷納本 行 第二百四十七號 第二十一卷

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勘兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

發 行 所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座 大阪三二九五番 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入
販賣所 東京市日本橋區室町四丁目 内外出版印刷株式會社

賣 捌 所

- (東京) 寶文館 東海堂
- (大阪) 寶文館 盛田屋
- (神戸) 寶文館 川瀬書店
- (京都) 寶文館 大盛社
- 參文社

不許複製 禁轉載

果 ヒノデ

敬 照 著

大 乘 新 論

私は本書に於て佛教を普遍的、合理的には取り扱はなかつた。宗教は生きてゐる。この生きたものとして己の生活を通して、大乘を瞥見せんことに努めた。本書には新しい試みが少くあるまい。それらば或學者達より、旺んに批判を受けるかも知れない。然したとへ、多くの非難あらうとも、そのうち一二の眞なる理解者あるなら、私は十分に報いられる。

思ふに大乘非佛説が若し歴史的に眞ならば、私のこの著もそれと共に何らかの意義を保有するであらう。他日大乘も佛説なりとせらるゝ日が再び来るならば、本書の生命も自ら失はるゝに相違ない。然し、私は大乘非佛説は明かに不動の眞理だと思つてゐる。そしてその上に、新しい東洋文化の認識は始められねばならぬと思つてゐる。大乘非佛説は西洋人より唱へ來つた新しい研究題目であつたが、私はこの彼らより得た武器に依つて、自己の文化を再検討し、以て自己の文化に明かな基礎を築かんと志した。(序より)

價 一・五〇 送一・四 四六判クロス 二三〇頁

新 刊

近 刊

ル ソ ー

(西哲叢書
第十二冊)

島 芳 夫 著

メーヌ・ド・ビラン

(西哲叢書
第二十二冊)

澤 瀉 久 敬 著

五〇七一 阪大振・町太丸町寺都京
九〇九三五 京東振・臺河駿田神京東

弘 文 堂



(大正五年四月六日)昭和十一年九月廿五日印刷納本(毎月一回)
(第三種郵便物認可)昭和十一年十月一日發 行(一日發行)

哲 學 研 究 第 二 百 四 十 七 號 定 價 金 四 拾 錢

郵 稅 金 壹 錢